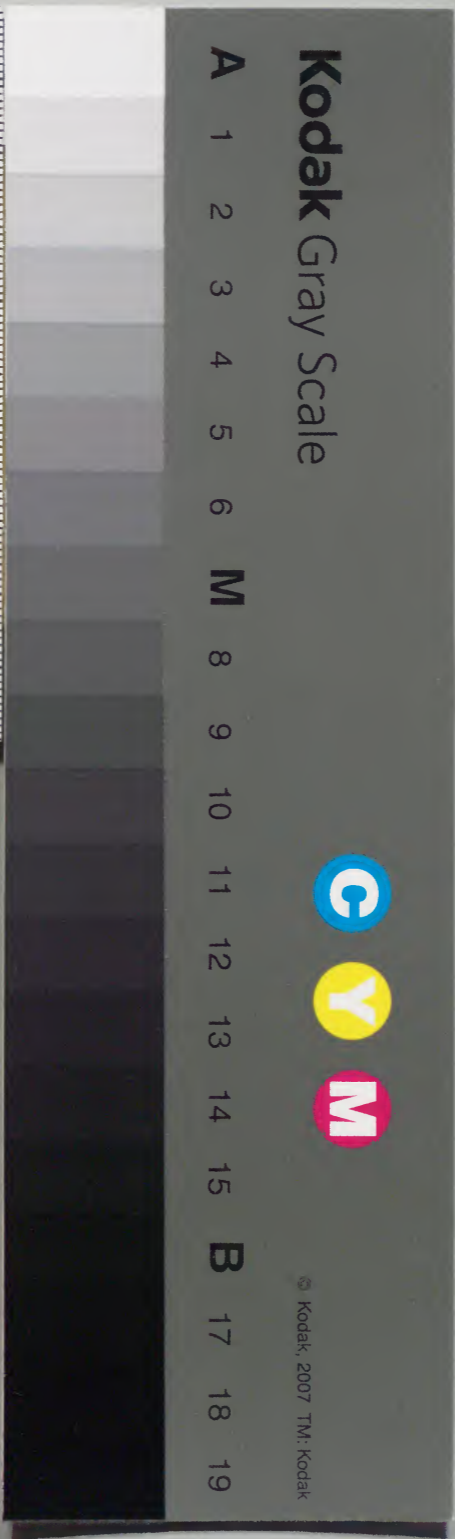


寛永諸家譜

藤原氏
方郷流

冊之八

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(94)		
函號	特	76	1





新店
 池田
 茂藤
 中鴻
 森
 長谷川
 河村
 平林
 中野

寛永諸家系圖傳

藤原氏

丙八小家

秀郷流
 新店

秀郷ひてさとし

後四位下

茂茂守

鎮守府將軍えよふのしやげん

母下野せ極麻か鴻か女ひ始あ和ら列り田と原け

何な寸す家か故こよ田と原け友とも太たと号ごう以も後ご

淺草文庫

小改之儀乃字とと

千晴り

下野守

千圓くま

成茂守

千種しゅ

上野介或る千時とと

千明あき

千清あき

相換守

左馬助 將軍右衛門

千常とと

常陸介

千方とと

修理左衛門

頼清とと

頼俊とと

奥平鍛おのの

左近衛右衛門

行後ユキノチ

内藤保儀ナカノテノタモト

後成ユキノチ

足立之郎アサダノロウ

季後ユキノチ

藤右馬允フジウマノサト

或説行後弟ある説ユキノチノイモ

季方ユキノチ

腰湫口ウサキノシ

兵頭湫口ヒノウヂノシ

季家ユキノチ

次郎湫口ツグロノシ

後季ユキノチ

三郎太史ミチロウノタシ 以時ヨシトキ 初ハジメ 久キウ 別ワケ 其浦ソノウラ 之ノ 絶ツツ

惟季ユキノチ

牛飼藤太史ウシケイノフジノタシ

後宗ユキノチ

永トヨ 友トモ 修シユ 理リ 亮ノリ

後成うしろなり

堀藤太ほりとうた

後正うしろただし

藤二ふじに 永左更ながささらの二男

後安うしろやす

永三郎ながさぶろう 永左更ながささらの二男

後平うしろひら

永八郎ながはちろう 永左更ながささらの三男

後経うしろつとむ

永五郎ながごろう 弾田はじりた

後景うしろかげ

永十郎ながじゅうろう

後綱うしろつな

今井いまい九郎くわ 進士しんし入道にゅうだう 比時ひとき始はじめ

今井いまい小伝こでんと 法名ほうな組ぐみ園えん

後行うしろゆき

今郎いまらう在あ東門とうもん入道にゅうだう 法名ほうな行ぎやう蓮れん

末綱トモツナ

五郎入道

實綱ツチツナ

六郎入道

法名參阿サンア

宗俊ムネトシ

藤六在東フジロクニヒガシ

遠俊トホトシ

六郎在東ロクロクニヒガシ

法名西阿サイア

胤俊トシユキ

六郎在東ロクロクニヒガシ

遠江守トホエノカミ

法名淨西ジヨウサイ

俊トシユキ

氏初ウヂノハジメ

法名堯阿ヒコア始ハジメ新庄ニウシラ在東ニヒガシ

正俊マサトシ

新庄ニウシラ六郎在東ロクロクニヒガシ

高俊たかひこ

六郎左衛門大進 越中守 法名 圓常えんじょう

秀遠ひでと

六郎左衛門尉

法名 彰西あきせい

詮遠あきと

権六 義濃守

光遠みつと

越中守

法名 專西せんせい

齊金論師さいきんろんし

某

信濃入道

法名 教西けうせい 中西相續なかつちゅうしゆく

遠明とほあき

肥前守 中小なかつちゅう 号 止とほ

惠呈海師

某

小郎左衛門 新店相續

照長論師

遠久

坂六左衛門 向と号と

女子

堀老母

舞臺

淨蓮寺

女子

小足老母

高遠

養濃守 法名園西

季遠

備中守 法名成弁

清遠きよと

左衛門尉

法名長西ちやうせい

女子

新店興之母

某

藤七ふじなな文部ぶんぶ合あ我が乃の時とき討うち死し

女子

多おほ増ぞう

宗印そういん

刑部卿

女子

八木やま

女子

小足

直後ちかご

新店將監しやうげん

某

新店右衛門尉

左衛門作

高直こうちゆう

花人尉 濃州 相田 鴻 合 我 乃 時 打 死

直嗣ちゆうしゆ

乃 弟 門 依

直寛ちゆうかん

新店 興 之 生 國 河 河

坂 田 那 新 店 乃 城 乃 居 之

或 時 歎 矣 伊 吹 山 乃 禁 乃 右 港 之

直寛 乃 れ と あ ひ じ ゅ じ ゅ 乃 討 死 之

某

興 八

某

僧

女子

女子

松原吉郎左衛門尉家次（同）河内
坂中此城をもち其後淺野彈正彌
長政（同）河内大津乃城（同）
后と申して大津此城の城主をい
直定ふたまはりて文禄三年ま
大津乃城主（同）
文禄三年十月大津をとりたれ
和州宇田乃城（同）伊予松尾乃城
高槻乃城（同）

慶長三年秀吉薨逝乃後秀頼（同）
侍ふ

東照大権現（同）直頼の質直なり
事と志り（同）恩恵（同）
月（同）上松原勝じりんと
大権現の移居御遷治（同）下野
御教向志給ふ時（同）右衛門少輔三成
上方（同）乱（同）をおこす（同）

時と津取とあり一乃流よ先くは
られぬ時と諸大名は館へ津成乃
時津相傳よ先くおさけ

同十二年十二月二十六日又内御

法中一任せらる

大権現津鷹持くく武列河越よ

おく津成乃時直頼信忠と直頼

石小くわく湯見くも頼 信よく

下総國海上く一人乃徳名あり其

あつらふせすかめく物成のり

事なりりたり財利をじいほり

と一乃軌單を軒ふけくもき里

人乃をくも物とけけく物夕の

食をけく軌單乃らじまく

志くうの目乃食物なりけきも求

とねふんをまかきが姓氏をまき

あけめす小之好家乃若と云直頼が

又直昌は徳年持列江はれ戦場よ

く討死す其合戦乃事彼者よく
志を尽しおんら海上よりく死
よあわく其時乃事を約せりく
来り此物命よよりく自彰海
上よりく彼隠者乃任前よりりく
みせ及う七十得の常門は記録を
通志くをたり名を惣改居士と
いひたり自彰乃面世んとよひり
すから菴室乃因よひ令物語

時瓜う川と其間よ江口合戦乃事
をこり野々新店とよ人の戦死
再よ家来の者首級ありこ実持
し居りよ自彰洞らみくい
其新店とよ志の某が父自昌と
よ志ありこ居士是とよ業を
拍く騎款と自頼をりよ
まわり居士が姓氏をよひけしよ更
よい子自頼又同くいり其合戦

乃時金の幣をとらへて諸段と下
せし民者ありとてきくると是誰人
我や居士とてく果なりと云く
終小姓氏をこつてす車彩川越よ
海く出りてと言上りけり
大権現と分はる沖感ありけり
同十七の十二月十九日卒寸歳七十五
法名嚴珊

直忠

刑部左衛門尉 東玉と号して生息
はぐめ秀吉ふつふ時よ河内淡路郡
蒲生郡邊羽安濃郡乃田あり
地二子七百石領と領と
慶長二年秀吉地界乃後直忠病
氣よ依て京都に閑居と
同十九年大坂兵乱乃時
大権現中女と我分成就準人正妻友節乃
小命とて東玉を 石布とて

書を板倉伊吹守より下す是の
依く大坂の守りしき臣吉久
大権現の湯一も其奉書い
ふまは取持と

元和二年同五年

台徳院殿沖上洛還沖乃時河内栢原
乃沖殿小坂く酒肴を献じ時
栢原乃沖殿を直忠形り与給依り

直氏

吉原 生園山城

慶長十九年元和元年大坂の役
乃沖陣の時直定小居く軍
を遣ふし又月七日天皇馬御へ
おわく甲首一級討取すから酒
井雅永頭忠世より

台徳院殿上洛小達せ給

元和元年七月朔日

台德院殿小幡一巻

同六年東玉死去乃後杉栢系

御殿をあげりり

同九年寛永三年あ度の空所

還御乃時栢系御殿より

酒肴と献と

寛永九年九月十七日

病死

十一歳 法名見盛

直真

与五右衛門 生國山城

寛永十二年十二月二十一日

將軍家より賜一巻於松平總殿助

属一巻 津島氏

直真

利髪志く為献と号と

女子

女子

直定

越前守 後白河下 生國同前

秀吉ひ秀頼ひつゝ

安永九年正月十五日父直頼と

相好く

大権現

台座院殿の湯 一ヶ所あり

同十九年大坂陣乃時酒井雄兵衛

忠世しんせい継小列つぐく軍いらに 台命たいめい

をつりりく松平安房守と同一く

今里いまに附城つを守侍

元和元年大坂陣乃時之又忠世しんせい継

了りありく陣を天皇と前小張ちやう女月

七日台戦乃時城しやう中ちゆうにをめ入いり

くひし直定り家乃若り三好
七島場の日夏み高米千根孫志
白井清重其人打死首級立つ家
乃手小切り
同二年 釣命小依く参者高成つ
とむ此時 信小いく新庄る始終心
を刻りしして忠信なる若ありと
守人はを面自とす
元和元年四月廿一日卒次 年五十七

法名了忠

直綱

右邊 生國河

孝文長三年

大権現伏見人少く直頼の宅へ渡御の
とき兄直定と相好く湯見
すくま川流

月五年

大権現乃釣命小依く父直頼あよ

直定と同く蒲生駒孫と秀行
一属一會津に居る

同九年

人権現乃石小依之新店父子會津
より駿府小野に赴く時秀行領
依之車細一人會津小野に居る
同十九年元和元年大坂の役乃
沖陣の時蒲生下野守忠郷
均命を以てありて是れ沖守

守之より依之忠郷一属と
寛永十年六月十九日 石小依之
將軍家より賜一書

同十一年十二月甲辰乃之代
より番地千石を拝領

同十二年日光 沖參詣に供奉
す

同十四年 上使よりて薩摩國小
野に

同十七年神岡村とて播州内粟

了いし

同十九年正月廿八日死去 歳五十八

法名宗珊

直方

興之右衛門 奥河會津より

寛永十一年正月廿二日

將軍家より賜ふ

同十二年六月二十六日神小姓組

番頭付

同十九年十一月十日直綱

千石を賜ふ

秀信

堀田信忠 堀田見守孝村の養子

新庄堀 今井元来同族

依り其家を継子とす

之家乃られ子孫を承け

たゞひ其家督を相續と

直房

義興と 後又後下 生國河

慶長三年

大権現伏見少く由頼の宅へ渡御
乃時直房河へめく

大権現より湯へもあすから

御前よおわく奉國免乃御脇指代
お取と其御脇指今よ是と取指と

同十一年

台徳院殿より湯へくま川

直頼死去乃後 信よ依く由頼
り番地乃より之子石を信と

同十八年

台徳院殿より湯へくま川

同十九年大坂合戦乃時兄直定と
甲く今里の付城と守く軍
事なりと

元和元年大坂再乱乃時酒井雅乐次
陽中（陽中）小属（小属）之月七日此合戦（合戦）
城中（城中）（家入（家入）正門乃此之首級（首級）
獲（獲）り其後天子乃其臺（臺）より
台德院殿（台德院殿）より賜（賜）りて

同八年

將軍家よりつとむ事

寛永七年 信（信）之依（依）之（之）祿宗川御
殿（殿）乃御作事（御作事）奉行（奉行）と信（信）心

同年十二月廿九日 鈞命（鈞命）より信（信）之

後之位下（後之位下）より叙（叙）せり

同九年 信（信）之（之）叙（叙）之（之）御使（御使）者（者）なり

同年十一月御同付（御同付）此役（此役）と 信（信）行（行）之

同十年十二月廿六日甲列（甲列）山梨郡（山梨郡）に
加信（加信）千石を賜（賜）り

同十二年九月十日 台命（台命）と叙（叙）之

御書院（御書院）表（表）此頭（此頭）と叙（叙）之（之）後（後）乃（乃）信（信）之
上使（上使）と（と）尾張紀伊（尾張紀伊）に（に）お（お）し（し）ま

の頼ひん組中乃輩をひまきく
後府に 沖城番の侍心じりく
是と志保守

直長 なほ

文周 武列 江戸へり生類

寛永九年八月十五日

將軍家へり賜へり心じり

直時 なほ

伊織 生玉 直長へり心じり

寛永十六年二月六日

將軍家へり賜へり心じり

同二十年六月 侍心じり

番心じり

女子

女子

真好まこと

越前守 没立位下 山城守伏見より

慶長十二年

台徳院殿より賜書あり

同十九年元和元年大坂の役乃

御陣乃時又直定と同一く軍事ぐんじ

と侍りし

元和元年十二月

台徳院殿乃 釣命えんめいより傳へ没立位下えんに

同日奉 台命えんめいと仰りて直定より

家督けとくを續く

將軍家より傳へる書に

同八年

台徳院殿日光 沖系えんけい乃時下野 國

石橋いしがし小石乃御指みさしを献けんじ時より

御羽織みはおり御袴みはかま多御儀おんぎと其比石

橋ハ真好まことより傳へる書に

同年十一月

台徳院殿并大炊頭利勝こしに 侍しけ給

え直好なほの御代野村石橋いしはしに遠とほく常とこ

列し乃の中ちゆう領りやうををりてり直好なほに

一いわりて知ちりてり母ははををおほけ

取とりてり命いのちををりてり

て石橋いしはし乃のき方かた石いしはああるるあ常とこ列し

古ふる浦うらああるる一い万まん石いしををりてり

將軍しやうぐんああるる一い万まん石いしををりてり

此これ大坂おほさか乃の沖城おほしををりてり

乃の城しやう番ばん江戸えどの沖門おほしををりてり

家け元もと家け元もと沖門おほし乃の時とき

教しやう度ど其その役やくををりてり乃の時とき

信しん使し来き朝あさ乃の時とき宗むね川がわ宿しゆく乃の時とき

還かへりてり小こ流りゆうををりてり

直好なほ常とこ列し乃の時とき乃の時とき番ばん地ち二に万まん

七しち千せん之の百ひやく石いしををりてり乃の時とき

ととりてり乃の時とき乃の時とき乃の時とき乃の時とき

配分と

足利尊氏卿沖判りすなりと

母衣先祖よりつとむる今

是と取物と

直之

因近武列信戸よ生れ

元和二年二月始

台德院殿より湯

同六年十一月

將軍家より湯

寛永三年二月

台德院殿より御命小依

つとむ

同丁丑年八月

將軍家より信小依

普清を名取寸沙普清場

乃時 石がたれ

上意より

同十六日七月十二日 沖前へ百書札
小姓組乃陽頭と札
同十七年正月六日 沖前へ百書札
印紙を以て

直治

内藏助武列 江戸小生
寛永十一年 沖前へ
將軍家小湯 奉
同十二年 沖前へ
小姓子

乃沖前へ

女子

女子

直常

新之助 武列 江戸小生
寛永六年 十一月
將軍家小湯 奉

家紋いへのもじ

大藤巴おほふぢ

或橋あるはし

上四蝶かみよひ

菱葉ひしぎ

夕形ゆふがた新あらた川がわ用もちくく只ただ紋もんとす

長谷川 えせがわ

● 公清 秀彌ありみ代

左衛門尉

作藤と号と

公澄 すけ

左衛門尉

帯刀大史

左衛門尉

知基 ちもと

後又位下

左京少進 さきやうのせうじん

準人正 じゆんじんのせい

知昌 ちまさ

後五位下

尾張守 おわりのかみ

知忠 ちただ

後五位下

尾張守

玄蕃人 げんぱんのひと

知宗 ちむね

左京

季康 きやす

左兵衛尉

宗季 むねすけ

左衛門尉

宗遠 しゆん げん

武者所

有経 あり けい

多満守 たまん しのり

宗経 しゆん けい

宗兼 しゆん けん

宗康 しゆん かつ

宗继 しゆん けい

左衛門尉

左衛門尉

左衛門尉

宗重 しゆん ちゆう

刑部丞 けいぶの じやう

左衛門尉

神長谷川 かみながたに

称 なづ

山内中絶 やまうちゅう ぜつ

宗的 しゆん だて

源之部

名祖大和 なむそ たいわ

宗仁 しゆん じん

源之部

生田山城 なまのたに さんじやう

天正十一年二月後五位下より叙せ
り刑部卿に任ぜり叙せ

慶長五年

東照大権現より侍りし御所

同十一年二月九日六十八歳歿して卒

す 法名深養

守知

右兵衛尉 生國用お

天正十年正月十九日後五位下に
叙せり刑部卿に任ぜり
慶長五年

大権現より侍りし御所

同十九日大坂陣にときも知悉

後府に侍りし御所

その御所倉伊賀守りし御所

の川守知より侍りし御所

藤原の御所より侍りし御所

寄手装まきつらんとすのりぐゆよ
牧度よなまびてか勝をこふと久
とと法軍士いもこびつすもか
疾不ねてつくせじふぐーとまり
ふれーよりく聖日落ふれ城り
おまじくうせら

大権規沖上海の時き 修成け海り
中橋よこ後前橋なるびよ行原
町よりて襲攻りのときなりぬ

作渡もその場を經廻らぬのう
台徳院殿法乃戰場を 高徳の

とに作渡も云としていく守知が
は寄よなひくハ竹末百教その力よ
色もなわこ道にりわ 沖感あつて
沖攻陣乃後沖服羽織なるびり
黄金等山津飲止
元和元年大坂再陣り

大権規りし法もよ

元和二年

大権現オホケンゲン夢ゆめ沖うきのら後府ウチノミヤより江戸エドより

ととししとと者もの恒とこと

寛永九年十一月二十六日オホノエより卒なつと

歳六十日としと法名ほふな宗隆むねたか

正尚マサナガ

縫殿ぬいのどの助すけ 生なま五いつ月前げ

安長九年やすながよりとめとく

大権現オホケンゲンをを淨きよ礼らいと

同十六年どうじゅうろくにん後府ウチノミヤよりと起おこくと河かへへ

よりと行ゆり

大坂オオサカああ度と乃の御陣ミマよりと父ちち与よ知ちととおおああく

信のぶ守まもりと行ゆりと

元和二年げんわ正月しげつ

台たい西せい院いん殿でんのの最さい命めいととううけけとと後のちりりとと

御書ミガキ院いん殿でんのの行ゆりと

同九年

將軍家より侍る今もまほりの御書院
妻を侍とむを^{えん}元^{えん}年^{ねん}ハ病^{やまひ}より^いり^まく
養生^{やうじやう}と^いふ

守勝^{しりやう}

兵助^{ひやうすけ}及^{およ}び^び之^の家^けつとあ^らは^しむ

慶長十七年よりめく

大権現より^たん^くん^{えん}湯^ゆ止^ど

元和二年

台徳院殿を^{たいとく}てん^{てん}を^を侍^{しりやう}礼^{らい}

寛永四年正月二十八日

將軍家より^{しやう}湯^ゆ一^{いつ}た^たく^く由^ゆ侍^{しりやう}り

同十年八月十五日より^{どう}じゅう^{じゅう}年^{ねん}八^{はち}月^{げつ}十^{じゅう}五^ご日^{にち}より^こし^しの^の御^ご書^{しよ}院^{いん}に^に侍^{しりやう}ら^らし^しぬ^ぬは^はら^らし^しぬ^ぬは^はら^らし^しぬ^ぬ

尚^{しやう}知^ち

小岳^{こだけ}後^ご河^か府^ふ中^{ちゆう}より^{しりやう}侍^{しりやう}ら^らし^しぬ^ぬ

正^{せい}尚^{しやう}が^が侍^{しりやう}ら^らし^しぬ^ぬは^はら^らし^しぬ^ぬ

寛永十六年十月十八日^{かん}えい^{じゅう}十六^{じゅう}年^{ねん}十^{じゅう}月^{げつ}十^{じゅう}八^{はち}日^{にち}より^{しりやう}侍^{しりやう}ら^らし^しぬ^ぬ

をひくうめて

將軍家よ洋陽一たてもはれ

家紋 うちのひょうりょう 又丸の内よ はてま 豊之川 ひら

長谷川

中進藤のら友由よいり

長谷川と称号と

有酒

進友文内少物 甥川志那

じま

享正九年八月六日六十歳歿
死に 法名中 煥美堂

藤廣 ちろ いら

長子 藤原 安徳 那 あの なる
寛文八年

東照大権現 とうしょう だいこんげん
同 命 いのち 命 いのち 命 いのち 命 いのち
長崎の ながさきの 事 こと 行 いこう を を 法 ほふ 心 しん

月十九年十二月廿二日 泉列境 いんりきょう

元和二年十月廿六日 又十歳 また じゅうさい
死 し に 法名 秀月 盛白 しゅうげつ せいびやく

廣清 ひろしむ

左馬助 後河府中 ごがわふちゅう
伯母 信玄院 のむ しのぶいん が 養子 やしよ と なる
寛文二年十一月一日

將軍家小孫湯みまろ一子こくははら
月年沖書院おき敷しきとと心こころ

進友まゐり家紋かゝり
長吉ちかきち川家紋がわがゝり

丸まるの月つき三さん川がわ
友ともの丸まる橋はし庭にわ

長谷川しせうが

正長まさなが

友九郎 後紀伊守と号す

後州小川よ生れ のら田中

后任也

々川義元没落の故

東照大権現よはくすまはる

元龜三年十二月廿二日^{せんりゅう}を^{ついで}列^しら^る方^{かた}
原^{はら}の戦^{いくさ}場^ばに^まひ^く討^う死^じニ^なリ^て七^{しち}歳^{さい}
法^{はふ}名^な存^{ぞん}法^{はふ}

正成^{せいせい}

執^{しやく}後^ご 生^{なま}國^{くに}後^ご河^が

九^く歳^{さい}より^く父^{ちち}より^く河^がゆ^く

大^{おほ}権^{けん}現^{げん}より^く食^{くわく}禄^{ろく}を^く後^ごり^く又^{また}子^こを^く

て^く十^{じゅう}三^{さん}乃^のと^く死^じす^る

大^{おほ}権^{けん}現^{げん}より^く河^がゆ^く

長^{なが}五^ご年^{ねん}宇^う都^つ文^{ぶん}津^{しん}を^く殺^{ころ}す^るの^く別^{べつ}

台^{たい}西^{せい}院^{いん}殿^{てん}より^く法^{はふ}名^な存^{ぞん}法^{はふ} 教^{けう}命^{めい}を^く

叩^{たた}き^く越^{えつ}前^{ぜん}参^{さん}議^ぎ忠^{ちゆう}直^{ちやく}卿^{けい}乃^の室^{むろ}

家^{いへ}より^く志^しを^くひ^くり^く越^{えつ}前^{ぜん}に^く

あ^らわ^らく^つつ^ふ

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}五^ご年^{ねん}九^く月^{げつ}二^に日^{にち}に^く死^じす^る

七^{しち}十^{じゅう}七^{しち}歳^{さい} 法^{はふ}名^な淨^{じやう}久^{きう}

正次しんじ

友九郎 武列ぶりつ 伊豆いず 生駒なごま

元和二年

台漣院殿たいれんいん 伊豆いず 生駒なごま

將軍家しやうぐんけ 伊豆いず 生駒なごま

宣次のりつ

伊豆いず 生國なごま 後河ごが

十七歳しちさい 乃時のとき

大權現おほいかり 乃時のとき

享正十八年きやうしんじはちじゅうはちねん 小田原陣おくだわらじん 乃時のとき

享正十七年きやうしんじはちじゅうしちねん 八月はちがつ 乃時のとき 十七歳しちさい

宣元のりもと

伊豆いず 生國なごま 河内かんな

十六歳じゅうろくさい

台漣院殿たいれんいん 伊豆いず 生駒なごま

享正十九年きやうしんじはちじゅうくにねん 元和元年げんわげんねん 大坂おさか

沖陣おきに信長のぶながを討て 命いのちをとりて
後河大納言のちがわのちのり忠長ただながを討て 命いのちをとりて
將軍家しやうぐんよりつとめとす

寛永十五年七月に死す 年十二歳

宣重のぶしげ

伊勢 生國なまくに氏うぢ

寛永十五年正月

將軍家しやうぐんよりつとめとす

正吉のぶきち

讃波さぬは 生國なまくに後河のちがわ

十一歳より

右徳院殿みぎのつとむらよりつとめとす

慶長十二年二月七日に死す

年十歳 信長のぶなが系けい

正信のぶのぶ

播磨守はりものり 氏うぢ列りゅう河がわ氏うぢ生國なまくに

正者やいなひく子に実ハ正成が子
なり

台徳院殿ふはくそくまうり 教命よ

ふらく正者が家督とほく

寛永九年十二月廿三日辰五位下に

叙一法海也よ法と

月十六年三月八日よ卒と日十宮威

法名了智

正綱

久之郎 生は田あ

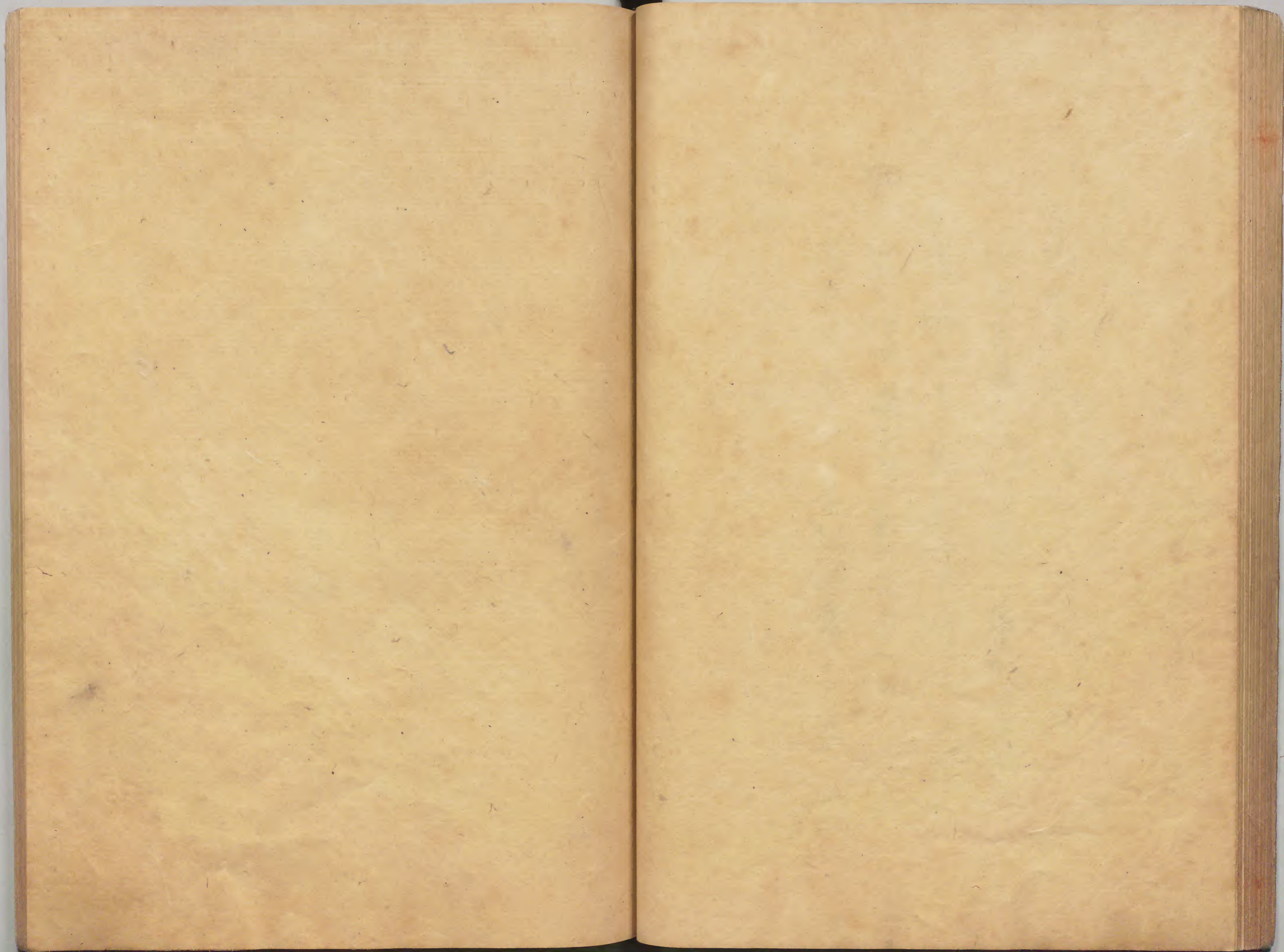
寛永十年十二月二十一日

將軍家より法賜と

月十二年正月二日よ御書院を

法と

家紋藤巴



長谷川 えせがわ

長久 ながひさ

二郎景 じらうかげ

生國大和 なまくにわ

法名長樹 ほんながじゆ

長盛 ながさか

友景 ともかげ

生國後河 なまくにのちが

法名長盛 ほんながさか

東照大権現 とうしょうだいこんげん

生國沖入國のら河田 なまくにのちのらがた

沖城敏乃を^{せん}つよをひく^{せん}沖代宿禰を
はもとむ

長親 ^{ながちか}

友右衛門 生國月前 法名長白 ^{ちやうはく}

大権現ふはくふそま^り沖代宿禰と
はもとむ^ら紀伊大細言^{おほこゝろ}抄^{しやう}室^{むろ}の
つゝ紀伊^{きい}子^こなわ

長勝 ^{ながかつ}

友兵衛 生國月前

長親^{ながちか}の^や昔^{せき}子^ことなり^の女^めは^なり^の
おと^とし^の婿^{むこ}と^なり^の長^{なが}次^{つぐ}子^こな^らわ

台酒屋殿

將軍家よはくふそま^り沖代^{せん}宿^{せん}禰^の
職^{しやく}は^なり^の心

長次 ^{ながつぐ}

友右衛門 生國月前 法名道忠 ^{だうしゆ}

大権現おん東洋とうよう入玉いりたまのはらめがされ
けんをしくまはるり

長重ながしげ

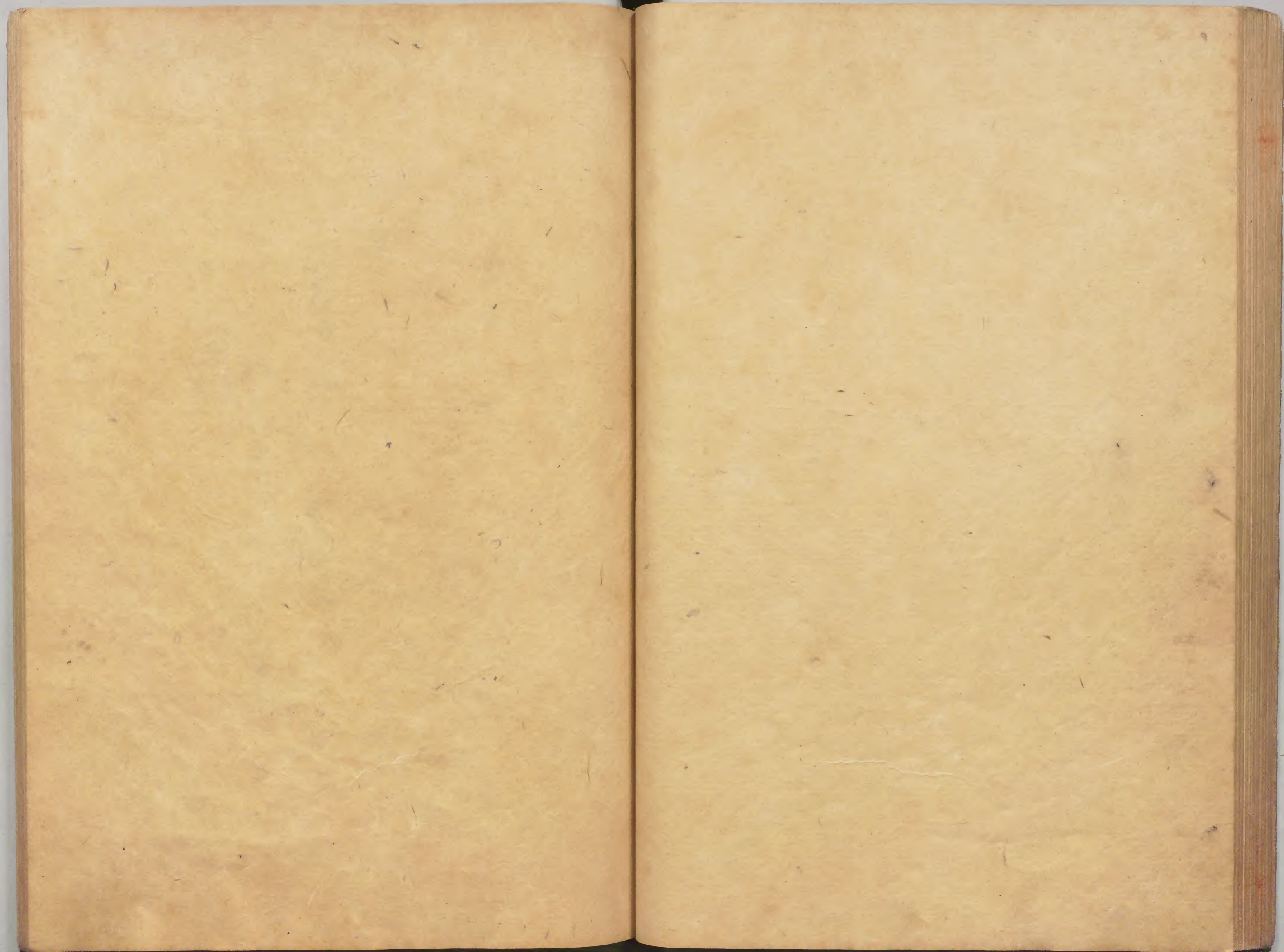
友右衛門尉 生國同前

大権現

台座たいざ院いん殿でんのはらめがされ
將軍家しげんけのはらめがされ

家紋

上友かみともの丸まる



長谷川ながたに

● 重良しげよし

助右衛門尉すけえもんゑい

生田後河なまのちごが

今川義元よけふ 平二景めく死と

法名浄春しやうしゆん

安重 やすしげ

源左衛門尉

生國同安

今川氏志よりはふ氏真没落のりり
氏国信玄よりはふ二十歳ありて死す
法名高尾 たかお

安勝 やすかつ

九兵衛尉

生國甲斐

元和九年十二月十九日

御軍家よりはふこれ法名高尾
大津妻よりはふ

家紋藤巴 ふじうま



長谷川へせがわ

光長みつなが

之右衛門尉

生國甲斐なみのり

法名曰夢ほりな

正清まさきよ

左衛門尉

生國長純なみのり

寛永五年かんえいごねん

台徳院殿より
將軍殿より
御書

家紋
夜丸

● 秀元 ひでゆき

大塚之河守 おほつかのがまもり

生國出羽 なまくにへ

羽川 秋田の城より討死 はつがわ ありたのしろよりうちころ

池田 いけだ

中々大塚と称して政者^{まさむね}が代^よりあつた

めく外祖父^{とと}の名字^{ななづか}を用^{もち}池田^{いけだ}と号^{なづ}せ

元重 もとしげ

大塚彦次郎

生國同前

法名道祐 どうすけ

政長 まさなが

池田若書 いけだわかしよ

生國が孫

安長十七年よりわらうとめく

東照大権現よりわらうとめく

台徳院殿

將軍家よりわらうとめく

寛永九年より死す

長好 ながよし

吉原寺

生國山城 なまのやま

台徳院殿

將軍家よりわらうとめく海防り九百名の

地代帳と

長勝 ながかつ

七六清

寛永七年

將軍家より候へりて

家紋梅輪むめづら因

● 重政

生國三河

時秀より重政よりより系圖中絶と

累代連川の神代なり

河村

家傳よりいよく俵友右衛門十代

相列の伯人河村右衛門時秀が後胤之

重貞しげさだ

若右衛門尉 生五月前

東照大権現より侍りて

重信しげのぶ

若右衛門 生四月前

大権現より侍りて侍りて 侍成りあり

同心乃より教輩をあげたり

安長十二年 五十七歳に死す

重勝しげかつ

若右衛門尉 生四歳

台座院殿より侍りて侍りて

安長十九年 元和元年 大坂あ度の

御陣より侍りて

元和二年

將軍家より侍りて侍りて

重次しげつ

吾七郎

生國同前

寛永えん十年六月朔日しげつ

將軍しげつ家しげつ一しげつ行しげつ之しげつ事しげつ之しげつ由しげつ也

同十五年しげつより御書院しげつ書しげつ之しげつ事しげつ也

家紋しげつ包合しげつ

衣服紋しげつ車しげつ

河村カムラ

某

昔古場カキ

法名軒ホウナノケン

重久シゲヒサ

昔次郎カキジロウ

生國後河ナマクニノカガ

中ナカ八ヤチ大石オオイシと称ナリ正マサ校マカ母ハハ方カタ礼レイ父フ乃ノ

氏を續て河村と稱す

天正十六年重久十二歳に於て

台酒院殿小幡すゝくまはら

長十年ほ初夜はらをたか總とら事と

ゆ敷さへ

月十二年

將軍家よりはら人とらをたか召とらす

寛永十二年六十歳に於て死去

法名玄松げんすけ

重正しげただ

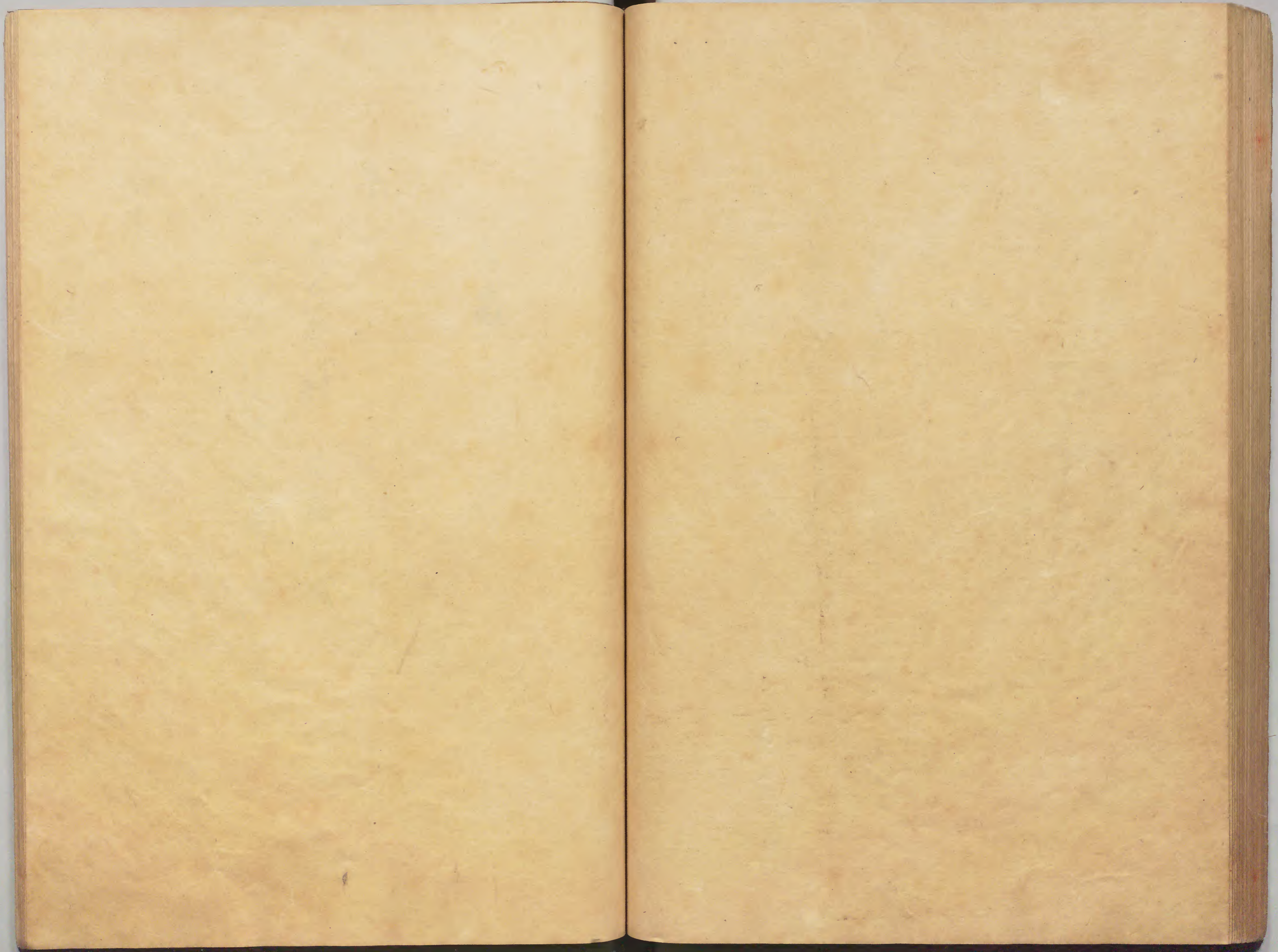
普八郎 生國長くにちか

寛永十二年重正十六歳に於て

將軍家よりはら人とらをたか召とらす

家紋





良友りゆうゆう

● 果

彦良ひこよし 尉ゑい 生國なまくに 山城やましろ
三好みやう 修理しゆり 左ひだり 長なが 友とも 下した 氏うぢ

安成やすなり

理兵りへい 靖せい

生國なまくに 同前

増田右衛門尉長盛（長盛）は信子（信子）実原陣（実原陣）の故

東照大権現（東照大権現）より一ひさされ信子（信子）より

河内和利（河内和利）より一ひさされ信子（信子）より

御朱印あり

寛永十九年（寛永十九年）元和（元和）大坂（大坂）の度（度）の

御陣（御陣）より信子（信子）より

台徳院（台徳院）敵より信子（信子）より

寛永元年（寛永元年）六十七歳（六十七歳）に死す

安信（安信）

理兵衛（理兵衛） 生國同前

寛永十五年（寛永十五年）より

大権現（大権現）より一ひさされ信子（信子）より

河内和利（河内和利）より一ひさされ信子（信子）より

大坂（大坂）の度（度）の御陣（御陣）より信子（信子）より

あり

台徳院（台徳院）敵

將軍（將軍）敵より信子（信子）より

安之

勝五郎 生五後河

寛永十三年

お軍家よ津陽一月十七年

此のきくまら

家紋最乃丸

● 光吉こうきち

平林ひらばやし

大兵衛おほべゑ 生國なまくに甲斐かい

武田信玄むけだのしんげんより、比叡ひゑ頼朝よりちかより、を約定いやくじやくす

天正てんしやう三年さん八月はつげつ二十一日にじゅういちにち長篠ながしの合戦あひびきの

より、比叡ひゑ頼朝よりちかより、討死うちじす

正廣 しやうこう

友助

東照大権現甲別沙手よ入てのら石
出さ道はく平とく甲別助
伝列川中鴻合戦のと此下乃高
名ありけと此症とく方これけり
よひて

大権現沙袋頭とて是人吏一人と

年毎ふうれと此乃津目付ハ酒井
与九郎なり

寛文六年六月死す

正次 しやうじ

友之郎

右酒院殿小治入平とく甲別助

寛文十六年十二月二十日

廿六歳ありて死す

正好

まこと

次郎右衛門尉

生田茂苑

むさし

家紋 松皮菱

まつかわび

某

与五郎 生國尾列

永禄五年織田信長の娘と豊崎之郎信
康主へ嫁しなり時信長の命より依り

中鴻

家傳りてん小儀たろ舊太秀ひて御ご後ご流りゅう中鴻ちゅうこう大郎だいろう義ぎ
泰末やと孫也まごと称なづす

尾列より三列ふいごり
東照大権現よ仕もは

某

与五郎

大権現よ仕もは

永禄十一年

大権現遠列演松の城へうはりなふ時志
ひまゝの同國高塚ふとひく
あはれ百石を

たもふ

天正四年十月二日武田信賴後列ふ
張と時り

大権現の命よ依くりの見となりを
坂本清よより兵部はうひく
相良浦よよまじきあはれらひ敵の
新見ひひく足種とひり太鼓を
大よ進みいこ戦敵このいきかひと
見くたやとくをふと教度相戦て

敵首^{てき}救^{あま}多^{おほ}均^して終^は小^こ討^{うち}死^しと相^あ志^しさ^る者^{もの}
或^{ある}は討^{うち}死^し或^{ある}は死^しと^いふ^はは^ら若^{わか}き^{もの}に^あて^る
法^は名^な守^{まも}法^は

重好

与^よ出^で郎^{らう}

板^い倉^{そう}固^こ防^{ぼう}守^{しゅ}重^{ちゆう}多^たた^た福^{ふく}う^うり^りの^の兄^{あに}ち^ちり

天^{てん}正^{せい}十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}

大^{だい}權^{けん}現^{げん}岡^{おか}東^{とう}八^{はち}列^{りつ}と^と依^より^てな^なみ^み江^え戸^この^の城^{じょう}

御^ご座^ざの^の時^{とき}重^{ちゆう}好^{こう}十^{じゅう}九^く歳^{さい}少^{せう}して^{して}江^え戸^こよ^よと^とす

小^{せう}笠^{かさ}原^{はら}越^え中^{ちゆう}守^{しゅ}と^とい^いて

大^{だい}權^{けん}現^{げん}よ^よ為^な瑞^{ずい}し^しを^を於^お時^{とき}は^は食^き福^{ふく}三^{さん}百^{ひゃく}俵^{ひょう}と

た^たま^まふ

・ 安^{やす}長^{ちやう}又^{また}年^{ねん}石^{いし}田^{でん}之^の成^{なり}謀^{ぼう}叛^{はん}

大^{だい}權^{けん}現^{げん}之^の成^{なり}と^と謀^{ぼう}得^{とく}し^しを^を多^たの^の伏^{ふく}見^{けん}の^の城^{じょう}

御^ご座^ざの^の時^{とき}重^{ちゆう}好^{こう} 釣^{てん}命^{めい}江^え家^けて^て大^{だい}坂^{さか}河^がの^の

御^ご座^ざ江^え改^かめ^め参^{さん}列^{りつ}大^{だい}崎^{さき}海^{かい}邊^{べん}の^の守^{まも}敷^{しき}と

し^して^て安^{やす}長^{ちやう}六^{ろく}年^{ねん}より^{より}大^{だい}崎^{さき}亦^{また}よ^よ事^{こと}江^え

身行をこれに倣く大濤よとて死たつち
六百石とていふ

同十二年五月朔日病死ひやうじ 四十二歳 法名
法りやう 登とよ

重ちか春はる

与忠郎

元和元年大坂陣おさかじんの時重春九歳と
して前吉田よしたふとてひて初はつめ

大権現おほごんげんの湯ゆに在りし時ときは信のぶよといふいひ幸さい六少むい童どう

原はら権ごん也えが没収ぼつしゆの船ふねありし重春ちかとて

これに倣なまちとてめよ板倉いたくら内膳うちぜん正ただ重昌ちかとて

新あらたに色いろ甚おほいといふ細少こまにい船ふねにい事こと成なり

勤こまめめりてこれに倣なまく志こころをい其その事こととて

之後のち年とし法りやう強たかく父ちち重好ちかとて没ぼつとて

六百石むいひやくしやく法りやうとて之後のち

台たい徳とく院いん殿だん

將軍しやうぐん家けよ仕つかへとて

家紋 家のえん

亀甲内劔菱 きっこうのうらまはひ

申野の

● 重直しげなほ

新庄の尉 生田とく之河

重吉しげよし

七歳 生田とく河前

重直しげなほが書あり子ことなりる家いハ酒さ井い江え節せつ屋やの

貞勝まことが子なり

東照大権現

台徳院殿よりくさくさくゆつ

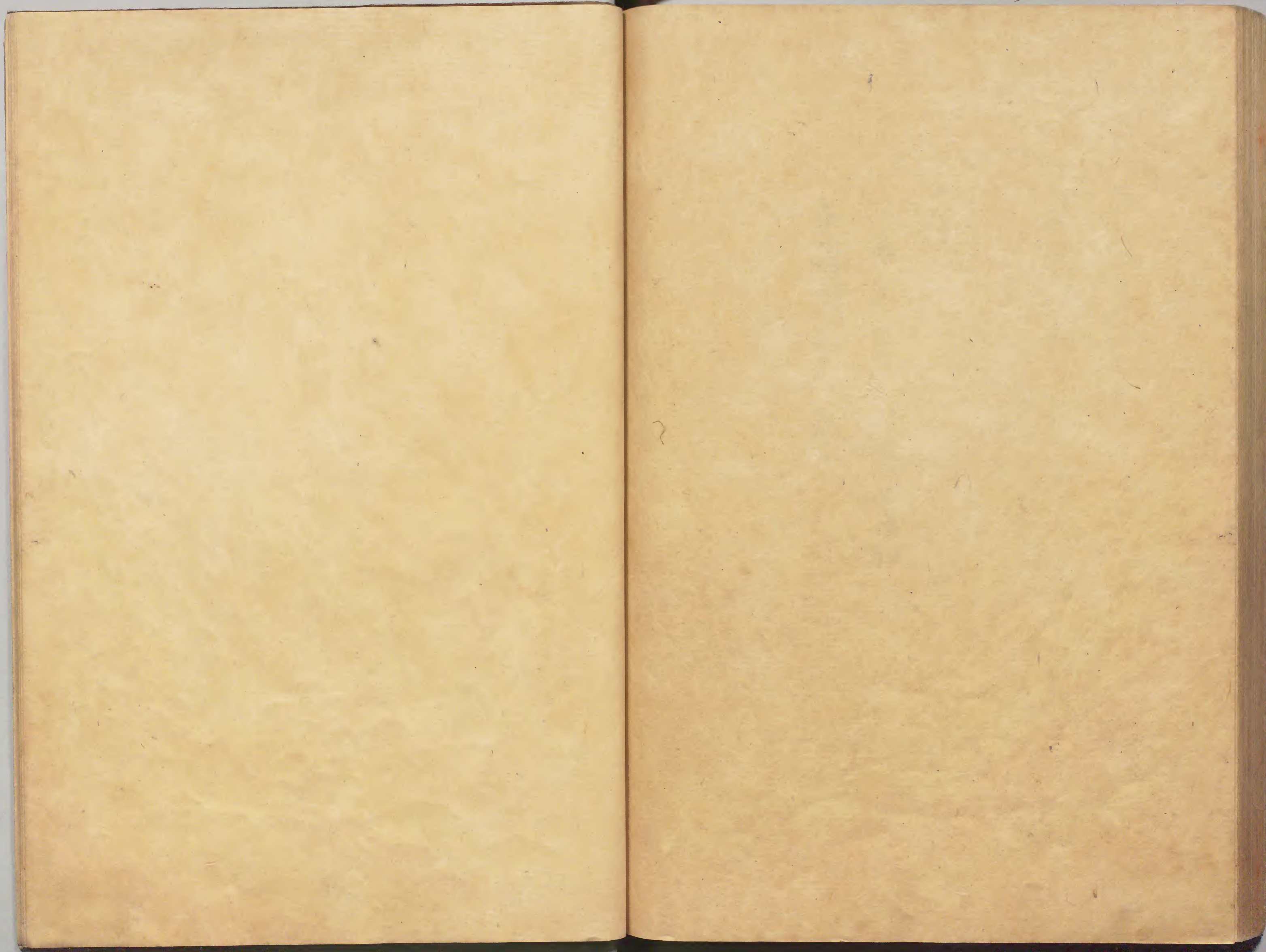
重弘しげひろ

吉良清尉 生國なかつくに

台徳院殿

將軍家よりつとくさくさく

家紋かもん鳩つばめ酢す草くさ



● 吾勝

森

中ハ上原と称す

上原甚み郎 生國甲斐

武田信玄より信ふ戸石乃合戦

討死 法名菩提

種正しゅせい

上原清海守あはらのせい 生國同前

信玄とくびろより 播頼よつひのな 上野正庭

尾の城よあまうらとくつねとくつねとくつねとくつね

返して甲列ふきり石和いしわとくつねとくつねとくつね

より徳役とくやく若許わかよの赤中あかちゆうとくつねとくつね

々よ取揚とりあげとくつね 信名源光しんみなげん

種長しゅちやう

森もりとくつねとくつねの尉ゑい 生國同前

东照大権現とうてうだいけんげん甲列かぎり沖入おきなとくつねとくつねとくつね

とくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつね

とくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつね

とくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつねとくつね

台徳院殿

お軍家よいさりていさりてはくはくとくつねとくつねとくつね

家紋けもん丸まる乃の内うち柏かしわ二葉ふたば折しりぞ差さ

森もり

● 吉久よしく

孫十郎 生國茂むけ 法名西雲さいうん

吉次よしつぐ

元和五年 生國同前

白鹿院殿

將軍家より之りて之りて

寛永十年病死 法名徳永

長政

徳之助 生國同前

將軍家より之りて之りて

